

# 小頭岳

平成 23 年 7 月 13 日 (水)  
新合地区振興会  
振興会便り  
文責:佐々木 元  
NO. 19

## ～立原地区あじさい～

立原地区では「あじさい会」(会長:吉川軍志他 12 名)で街路樹帯に現在、約 3,300 本のあじさいを植え、今も活動をされている。今年も多くのきれいなあじさいがこころをなごませてくれた。



## 長寿の秘訣

◎若い時から体を使ってよく働いたこと。  
◎温泉で体調がよくなるのでよく利用する。  
◎社会の動向に興味があり、日曜日の政治討論など楽しみでよく見ている。  
◎蒔き割りをして風呂を涌かすのが日課。  
**大塚アキエさん(上松中地区) 94歳に聞きました。**

## がんばってます⑪ 市平区平床「柳本春義さん夫妻」 「愛情いっぱい」

50年前ぐらいは田舎でも玉子(卵)は貴重な食べ物であった。島田洋七の『がばいばあちゃん』(徳間文庫)にも、運動会の朝、鶏に向かって「産め!産め!」と言っている祖母の事が出てくる。

ところで新合でも最近では鶏を飼う農家も少なくなりました。その中で一番多く鶏の飼育をしているのが柳本春義さん。役所退職当初は40羽飼っていたが4年目を迎えた今は80羽を飼育。柳本さんにはこだわりがある。まずは餌である。

- 《柳本家の鶏の餌》
- ・トウモロコシ
  - ・パワーレイヤー(鶏専用)
  - ・EM糖
  - ・生ぬか
  - ・魚粉(ミンチ)
  - ・貝殻
  - ・青菜(野菜)
  - ・その他(X)

右の表の通りである。→  
その他の(X)は秘密と言ってどうしても教えてもらえなかった。

次に9羽に1羽は雄の鶏も一緒に飼育、有精卵が栄養価値が高いということからである。

実験がある。青大将(ヘビ)に有精卵と無精卵を与えたところ有精卵だけ食べたという。



さらに柳本さんならではの愛情を注ぐ。鶏舎を訪ねると鶏を名前と呼ぶ、名前は四人(男の子)の孫の名前をつけている。足りない分は役所時代の友人の名前を使用。呼ばれた鶏は柳本さんの肩に止まったりし、止まってきた鶏とは、優しく会話するのである。

私はこの様子を見て、『がばいばあちゃん』並みにただ「産め!産め!」と怒鳴るだけ、時にはも

っと乱暴な脅し文句をつかっていることを恥じた。

奥さん(幸子さん)はもっぱら青菜(野菜)を切ったり餌の配合に専念し、夫婦で飼育されている。

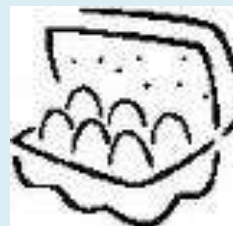
このようなこだわり玉子を毎日平均50個は産むという。なぜこだわった飼育をするのか聞いてみた。

第一に孫六人に納得のいく安全・安心で美味しい玉子を食べさせたい願いが。第二に子供の頃から鶏そのものが好きであったこと。だそうである。

熊本・人吉・本渡に居る孫に米と共に届ける。とても喜んで食べているとのこと。他に余裕があれば、立原の里の直販所に出したりしている。鶏糞は、自家用にする他は近所や青菜をもらう知り合いに配るといふ。

友人の中には「いっぺんになぐるっときゃ(貧乏になる)三輪自動車を買う(運送業する)ぼちぼちなぐるっときゃ鶏飼えと昔の人は言っている」と言ってからかわれていることもあると笑って話された。

鶏の飼育で苦になる事は無いとのこと。子や孫への深い愛情はもちろん動物や野菜、米作りまで全てに愛を注ぐ柳本ご夫妻の姿が輝いてみえた。



## 新合地区住民の安心・安全を願って!

～新合自主防災会～

7月6日(水)新合の自主防災会役員会が開催された。これは旧河浦町の時、高齢化が進行中で消防団員の減少を補充する為地元消防団員OBを中心に組織されたものである。

役員会(男9名・女3名)では、毎年取り組んでいる「普通救命講習会」をはじめ、火事や災害を防ぎ、災害時の生命・財産を守るための取り組みや課題についての話し合いがあった。近年の2件の火災の折も、自主防災が現場に一早く駆けつけ消防団や消防署員への支援がなされた。

今後、地震・津波をはじめ、異常気象等益々災害への対応が必要となる事が予想される。

自主防災会員は全てボランティアで活動している。それに報いる方法はないかと現在思案中である。

会長:松下 喜住 副会長:坂本 敏雄 庶務部長:大久保 修一  
顧問:佐々木 元、小川 勝幸



## 「のさり」の開校式 ～地域総合学習の会～

平成23年度の地域総合学習の会の開講式をしました。平日の6月22日(水)に実施しましたが、老人会の方の協力もあり52名の参加がありました。

今回は本渡で「あまくさ生きがいネット」を主宰されている山口誠治さんを講師としてお招きし、「のさりの人生」という演題で話されました。



天草には「のさり」という言葉があつて「それが、あんたの、のさりたい」「のさつとるなあ」など。その意味はその人の力ではなく、天から与えられたもの。良いこともあれば悪いこともある。すべては天の与えだから何でも与え頂いたものを喜んでほしい。「のさり」は天草の素晴らしい精神文化であるという内容でお話いただき、参加された方の中には「ほんとうに良かった。」「涙がでた!」と云って帰られる方もいました。

## 人気の「架け干し米」ふるさと宅配便!

名古屋の方が「架け干し米」が気に入り、北海道に住む子供さんにもコメを送ってほしいと依頼があり、届けました。先日、『子供たちも美味しい。』と喜んでました。」と云うお礼状が届きました。人気上昇の「架け干し米」です。

## どろんこ大会

7月10日(日)、第14回市平地区の「どろんこ大会」(市平なんかしゅう会:会長本多恵二さん)が実施されました。見学も含め約70名の参加者でミニバレーやスイカ割りでにぎわいました。



## 『道路工夫物語』(12) 大久保惣八さん(79歳) ～ 完結編 ～

惣八さんに奥さんについて尋ねると「よかっぱり、これ以上の妻は居ない。神様のごとく。」と即座に答えられた。道路工夫の仕事を影で支えてくれたという奥さんへの感謝の気持ちが痛い程伝わってきた。



その奥さんに「惣八さんはどうですか?」と尋ねると笑って答えられない、無理押しして尋ねると「かんしゃくもち」と一言。惣八さんの内外を問わず仕事への情熱と正義感の強さからくるものだろう。

お二人の結婚のいきさつもお話していただいた「妻は顔も名前も知らずにもらった。」とのこと、叔父の世話でもらったが、その叔父は

「顔も名前も、もらえばわかってささい!」このことが本当かどうか定かでないが昔はそういうことも多かったという話はよく聞く。

無論、世話する人は今も昔も相手にふさわしい人かどうか熟慮して紹介するものである。叔父さんの目に狂いは無かった。

定年退職後は息子夫婦と孫二人の六人家族で農業の傍ら、孫五人の成長と趣味を楽しみに生活。趣味は読書で毎回移動図書館を利用されている。又、「刃物研ぎ」が特技で周囲の方によく研いでやられる。

さらに「指圧」も本を購入して自学され自信を持っておられる。「小頭岳 No.18の「九死に一生」は指圧の効果だろうという。

このコーナーは、大久保さんご夫妻はじめ家族の皆様のご協力で12回も続けて紹介できた。心から感謝をし、惣八さんご夫妻の益々のご多幸を祈念しつつ「道路工夫物語」を終わりたいと思う。

温故知新「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」どうだったでしょうか?

## ～お知らせ～ どなたでも参加ください

- 7月21日、8月4日・18日健康体操 19:30～新合公民館
- 7月28日 総合学習の会 日帰り研修・・・熊本方面

## 快気祝に寄附

病气入院されていた松下 フクエさんが退院され、快気祝として新合地区振興会に寄附がありました。新合地区の活性化のために有効に使わせていただきます。ありがとうございました。